○鳴門海峡周辺関連年表

西暦	年	月日	事項
400		―	この頃、塩づくりが行われる（鳴門市日出遺跡）
761	天平宝字5	―	「平城宮跡出土木簡」に淡路国三原郡阿万郷から「調塩三斗」が平城宮に送られた記載あり
935	承平5	1月29日	紀貫之が土佐から都への帰途に土佐泊に立ち寄る
1243	仁治4	2月	『南海流浪記』に福良から讃岐に至るルートの記載あり
1299	正安1	―	「一遍聖絵」に阿波から淡路へ船で渡る一遍の様子が描かれる
1350	観応1	6月3日	足利義詮、安宅一族に対して、淡路沼島の海賊退治を命じる
1445	文安2	―	『兵庫北関入船納帳』に撫養・土佐泊の積荷の記載あり
		―	『兵庫北関雑船納帳』に撫養・北泊・木津の記載あり
1468	応仁2		『海東諸国記』に「阿波州鳴門浦大将軍源朝臣義直」とあり
1523	大永3	4月	足利義植、阿波撫養で死去
1568	永禄11	9月	室町幕府14代将軍足利義栄、阿波へ帰国し、撫養で死去
1582	天正10	9月21日	長宗我部元親、土佐泊城を除く阿波一国を平定
1585	天正13	6月22日	蜂須賀家政、豊臣秀吉から阿波国を拝領される
1586	天正14	3月22日	里浦と林崎浦から岡崎十人衆が召し出され、淡路渡海の任に当たる
1597	慶長2	―	篠原孫左衛門が撫養高島塩田を開く
1598	慶長3	6月	蜂須賀家政が国内の交通の要衝8ヵ寺を駅路寺に指定し、旅人の保護と監視を命じる
1599	慶長4	3月	家政が播磨国から馬居七郎兵衛・大谷五郎太夫を招いて撫養塩浜の開発に着手させる
1605	慶長10	―	このころ、撫養塩田に大斉田・中斉田・大黒崎・小黒崎の四組塩浜が成立
1605頃	慶長10頃	―	「慶長土阿波国絵図」完成。
1614	慶長19	―	大坂冬の陣時における小鳴門海峡の封鎖を撫養城番に命ずる
1615	元和1	5月21日	至鎮、淡路国を加増される
		8月7日	一国一城令が制定
1616	元和2	―	鳴門海峡の渡海の任を担う3家が森七郎兵衛に召し出される
1620	元和6	―	このころ、名東郡南斎田塩田を開く
1627	寛永4	1月	淡路国の総検地が行われる
		7月	淡路国の棟付改めが行われる
1631	寛永8	6月27日	稲田示植、淡路城代となり洲本に移る
1633頃	寛永10頃	―	「寛永前期阿波国絵図」完成
1636	寛永13	11月20日	那賀郡長浜・答島塩田が開作される
1638	寛永15	―	『阿淡年表秘録』に一国一城令についての記載あり、阿波九城の解体を進める
1640	寛永17	―	撫養斎田村の内桑島村新浜塩田開拓免許の文書あり（鳴門市桑島中島政雄蔵）
1641頃	寛永18頃	―	「寛永後期阿波国絵図」完成
1642	寛永19	―	この年より浦々漁猟に課税する
1644	正保1	―	このころ、撫養塩方12ヵ村（斎田・黒崎・大桑島・小桑島・南浜・北浜・立岩・弁財天・高島・三ツ石・明神・小島田）が成立する
		―	仕置家老賀島主水が森安之丞に撫養での流通統制を命じる8ヶ条の覚書を発出
		―	板野郡小鍬島の塩田できる
1645	正保2	―	塩方代官所を設置する
		―	このころ撫養塩田、瀬戸里浦にのび22ヵ村にひろがる
1646	正保3	―	「阿波淡路両国絵図」完成
1648	慶安1	―	塩方役場を創立する
1649	慶安2	10月	因幡守君（後の4代藩主光隆）、大毛山に鹿狩り
1654	承応3	8月	蜂須賀光隆、撫養御茶屋に入って、9月上旬帰城
1657	明暦3	4月25日	蜂須賀光隆、撫養大毛山にて鹿狩
		4月25日	蜂須賀光隆、撫養大毛山で鹿狩り。鹿64頭を得る
1658	万治1	12月	蜂須賀光隆、淡路巡見
1659	万治2	10月	蜂須賀光隆、堂浦で鹿狩り。鹿2頭を得る
1662	寛文2	―	「扶桑国之図」完成
1663	寛文3	1月23日	船舶交通に付心得申付覚（1月23日付）あり
1665頃	寛文5頃	―	「阿波淡路両国絵図」完成
1668	寛文8	10月5日	船往来につき申付覚（10月5日付）あり
		―	「西国筋海陸絵図」完成
1672	寛文12	―	「西海陸細見図」完成
1673	延宝1	9月	蜂須賀綱通、淡路巡見
1678	延宝6	3月	蜂須賀綱矩、撫養大毛山・長崎山・島田青升山で鹿狩り。
1680	延宝8	―	「海瀕舟行図」完成
1682	天和2	7月	蜂須賀綱矩、阿淡両国巡見
1686	貞享3	9月3日	蜂須賀綱矩、鷹野（鷹狩り）のため撫養に出向き、6日に帰城
1687	貞享4	―	「本朝図鑑綱目」完成

○鳴門海峡周辺関連年表

西暦	年	月日	事項
1691	元禄4	―	「日本海山潮陸図」完成
		―	「日本絵図・名所入」完成
1694	元禄7	―	他国米密輸入禁止令出る
		―	塩の売人が扱う俵数に対し、御口銀をかける
1695	元禄8	3月16日	他国へ旅行する時は、庄屋・五人組連判の切手を必要とする触書を出す（3月16日）
		―	半左衛門が蜂須賀綱矩の許可を得て、福良に入浜塩田を開く
1696	元禄9	10月5日	蜂須賀綱矩、淡路に渡海。洲本城にて諸士御目見仰せ付けられる
		10月12日	蜂須賀綱矩、洲本から撫養の御屋敷に入り里浦・土佐泊を巡見して鳴門観潮を行い、15日に帰城
1697	元禄10	2月5日	諸船の運航に対して課税を規定する（2月5日）
1698	元禄11	―	海賊用右衛門、海岸をあらす
1700	元禄13	6月11日	密製塩、製塩業者の暮しなどに対して監視を強化する。また1俵の内量を2斗5升に定む
		―	塩積出船取締書なる
1700頃	元禄13頃	―	「元禄度阿波国絵図」完成
1710	宝永7	―	「南贍部洲大日本国正統図」完成
1711	正徳1	2月17日	蜂須賀綱矩、大幸村に出向き鷹野を行い、19日に帰城
		10月18日	蜂須賀綱矩、御鷹野を撫養で行う
1716	享保1	4月18日	蜂須賀綱矩、鷹野のため撫養に行き、翌日帰城
1718	享保3	10月11日	蜂須賀綱矩、撫養で鷹野を行い、翌日帰城
1721	享保6	10月	塩の密造・抜荷その他不正を禁止する制札を立てる
		10月	密製塩、取引などに関する制札を出す
1722	享保7	5月23日	塩を取り扱う問屋の諸規定を出す
1726	享保11	10月25日	蜂須賀綱矩、鷹野のため撫養に出向くため撫養御屋敷へ御出になり27日帰城
1727	享保12	3月22日	蜂須賀綱矩、撫養へ御慰みのため出かけ、26日に帰城（魚釣りヵ）
1728	享保13	10月18日	撫養の藻風呂に来る
1729	享保14	3月19日	蜂須賀宗員、淡路巡見
		6月18日	蜂須賀宗員、撫養へ出かけ北泊りを御見分、御屋敷浜で田中八郎左衛門に騎射を命じ、翌19日に大毛山の牧馬を見て、帰途につく前、大毛浜で御弓の者両名に弓矢をためさせる
1735	享保20	―	西川祐信により「鳴門図」が描かれる
1739	元文4	2月5日	阿波の産物を国外に積み出すことを禁ずる
1740	元文5	11月6日	蜂須賀宗鎮、淡路巡見
		11月	蜂須賀宗鎮、林崎古城山で兎狩りを行い、続いて里浦の古跡を見て、城山の山続きで兎狩りをし、渡海して淡路へ向かう
		11月6日	蜂須賀宗鎮、淡路巡見の帰途天候待ちに逗留し、岡崎御屋敷で土佐泊浦・林崎浦・黒崎の子供祭礼の節、歌舞伎を観覧
		11月23日	蜂須賀宗鎮、木津長谷寺へ参詣して即日帰城
1741	寛保1	―	西宮神社社家の徳島への旅の様子が「阿州淡州下向之日記」が記される
1744	延享1	11月	蜂須賀宗鎮、撫養で鷹野を行い、木津長谷寺金毘羅観音へ参詣
1747	延享4	1月12日	蜂須賀宗鎮、撫養で鹿狩
1747	延享4	1月12日	蜂須賀宗鎮、鹿狩りのため撫養に来て13日に帰城
1748	寛延1	3月4日	他国者取締令達
1752	宝暦2	―	森幸安「日本輿地図」完成
1756	宝暦6	―	この頃より撫養に足袋製造始まる
1760	宝暦10	10月29日	蜂須賀重喜、鹿狩りを撫養で行い11月９日帰城
1763	宝暦13	―	「四国偏礼図」完成
		―	渡船交通取締り
1764	明和1	―	他国米密輸禁止令出る
		9月26日	蜂須賀重喜、撫養で鹿狩り
1768	明和5	―	「傾城阿波鳴門」成る（近松半二）
		8月7日	蜂須賀重喜、撫養に行き大毛山で鹿狩り
1770	明和7	―	「大日本道中行程細見記」完成
1771	明和8	6月8日	海部郡日和佐浦へ異国船（船長ベニョフスキー）が漂着
		―	3、4月頃から伊勢参宮流行、これを取り締まる令達出る
		―	藤原惇則により「鳴門海月之図」が描かれる
1775	安永4	―	「改正日本輿地路程全図」完成
1776	安永5	―	この頃、姫田で「大谷焼」はじまる
1779	安永8	―	塩運搬についての新規定をつくる
1781	天明1	―	大坂の歌人、加藤影範が鳴門を訪れ、『観濤録』が記される
1788	天明8	―	塩の売買に関する法規を厳守

○鳴門海峡周辺関連年表

西暦	年	月日	事項
1789	寛政1	―	阿波の塩田面積433町８反７畝・産塩高177万9698俵に達する
		7月	塩に対する税額を定める
		―	塩問屋33人を指定して御口銀冥加銀を課する
1791	寛政3	―	塩の税金を増課する
1793	寛政5	1月20日	蜂須賀治昭、撫養で鹿狩りを行い23日に帰城
1794	寛政6	―	塩1俵売買毎に1厘を積み立て、塩田堤防修繕費にあてることを命じる
		9月2日	蜂須賀治昭、撫養で鹿狩り・鷹野を行い6日に帰城
1795	寛政7	―	『鳴門辺集』が完成する
1796	寛政8	―	鈴木芙蓉「鳴門十二勝真景図」が完成する
1799	寛政11	―	鈴木芙蓉「鳴門暁景図」が完成する
1800	寛政12	―	淵上旭江「山水奇観」が完成する
1801	享和1	―	徳島、撫養に干鰯問屋９軒を公認する
1802	享和2	8月28日	蜂須賀治昭、撫養の藻風呂に来て9月5日に帰城
1803	享和3	10月	大坂の儒学者篠崎小竹が鳴門を訪れ、『観鳴門記』を記す
1805	文化2	2月1日	蜂須賀治昭、大毛山で鹿狩り
1808	文化5	1月	伊能忠敬が撫養にきて、阿波国の測量をはじめる
1810	文化7	―	斎田塩の表装、容量、品質を管理する「塩御会所」が岡崎と黒崎に設置される
		―	塩田の等級を計12段階にわける
		―	塩の移出許可される
1811	文化8	―	『阿波名所図会』が刊行される
1814	文化11	9月26日	蜂須賀治昭、御鷹野のために撫養へ来り末日に帰城
1815	文化12	―	藤原之憲、阿波国の地誌『阿波志』を編纂する
1817	文化14	3月9日	蜂須賀斉昌、淡路巡見
		―	葛飾北斎『北斎漫画』七編「阿波の鳴門」完成
1818	文政1	7月7日	蜂須賀斉昌、御慰みのため撫養に来る（魚釣りヵ）
1820	文政3	―	小原春造、藩命により『阿淡産志』の編纂に着手（寛政は明治5年）
1821	文政4	―	和歌山県印南町沖で「堂浦の百人流れ」と言われる海難事故が起こる
		3月	他国米の国内積入その他米穀の運搬についての通達
1822	文政5	6月8日	蜂須賀斉昌、魚釣りのため撫養に来て10日に帰城
1823	文政6	―	山西家が斎田村で商業経営を開始
1824	文政7	―	船法申渡覚あり
		8月25日	蜂須賀斉昌、魚釣り慰みのため撫養に来て28日帰城
1826	文政9	―	シーボルト『日本』に鳴門の渦潮の記載あり
		―	撫養大凧（宇田紙150枚）上がる
1828	文政11	―	「国郡全図」完成
		7月7日	蜂須賀斉昌、撫養に魚釣りにきて10日に帰城
1829	文政12	12月20日	海部郡日和佐浦・牟岐浦沖合にイギリス船出現、水・食糧を求める。徳島藩では海岸線の警備を厳重にする
1830	天保1	―	全国各地で伊勢神宮への「お陰参り（抜け参り）」が流行。阿波からはじまったと伝えられる
		―	妙見神社が完成
		―	この頃、人形座の数は最盛となる
1831	天保2	―	「阿波国御絵図」が完成する
		―	徳島藩の測量家岡崎三蔵父子による「阿波国図」（約4万5000分の１）が完成する
1832	天保3	8月6日	蜂須賀斉昌、6日から9日まで撫養の魚釣りをたのしむ
1834	天保5	―	「大日本輿地便覧　坤」完成
1837	天保8	2月	大塩平八郎の乱の情報が淡路経由で阿波に伝わる
1840	天保11	―	シーボルト『日本図』刊行
1841	天保12	10月	板野郡岡崎村の初太郎、遭難して太平洋を漂流。アメリカに至り天保15年８月阿波に帰国
1844	弘化1	―	初太郎の漂流記「亜墨新話」なる（記録は藩儒酒井順蔵・前川秋香）
1845	弘化2	―	江戸の元取問屋、広屋吉右衛門・清水茂兵衛・長岡六平・岡本又十郎・伊坂藤兵衛に御手捌塩を引きうけさせる。為替金を拝借しない船もすべて御手捌とする
		―	中山茂純、『阿淡年表秘録』を完成させる
		―	里浦（鳴門市）の前川文太郎、わかめ製法を改良する
1847	弘化4	―	自・他国船ともに、積塩については江戸の元取問屋着とする
1850	嘉永3	―	守住貫魚「鳴門真景図」が完成する
1852	嘉永5	6月	撫養の塩問屋・直師より勢尾両州船の塩積入方停止願がだされ、許可される
1853	嘉永6	3月27日	勢尾両州船のうち、御法遵守の新船についての塩積入方許可願いがだされる
		4月	勢尾両州船のうち、元取問屋へ着船する船についての塩積入方許可願がだされる
		9月	直師より為替御拝借付廻船の塩の浦賀商許可願がだされる

○鳴門海峡周辺関連年表

西暦	年	月日	事項
1854	安政1	―	徳島藩、淡路の由良（洲本市）・岩屋（淡路町）に砲台の建設を始める
		―	山西家菩提寺「仙龍院」が完成
1855	安政2	―	為替御拝借付廻船の塩の浦賀商が許可される
		―	黒崎村の志摩久兵衛が徳島藩商用方へ芒硝製造の株を出願し許可を得る
		―	歌川広重「六十余洲名所図会・鳴門の風景」が完成
1857	安政4	―	歌川広重「阿波鳴門之風景」完成
1858	安政5	―	撫養岡崎に西宮神社が建立される
1859	安政6	―	二代歌川広重「諸国名所百景・鳴門真景」が完成
1860	万延1	5月	神奈川御開港交易許可につき、斎田塩の売事開放願が武州神奈川宿青木町茅木屋次郎左衛門ほかから阿州塩方御役所へだされる
1861	文久1	3月	神奈川宿廻船問屋からの塩の開港交易願が許可される
1862	文久2	―	二代歌川広重「諸国六十八景阿波北泊小鳴門」が完成
1863	文久3	10月	御手捌塩江戸元取問屋減少にて、江戸表塩問屋2人を元取にすることの願が撫養の問屋天羽・泉・山西からだされる
		―	勝浦郡金磯新田の多田宗太郎、小松島・弁天山に砲台を築く
1866	慶応2	―	撫養大凧（宇田紙200枚）上がる
1867	慶応3	2月29日	塩の江戸御手捌御取行が廃止される
		―	「ええじゃないか」の狂乱状態が阿波一円に広がる
1868	明治1	1月4日	伊島付近の海上で薩摩藩と旧幕府軍の軍艦が放火を交える（阿波沖の海戦）
1869	明治2	6月24日	版籍奉還により徳島藩が成立。蜂須賀茂韶が知藩事に任命
		―	英国海軍により、鳴門海峡の航海用地図が出版される
1870	明治3	―	「阿波国全図」完成
		―	岡崎屋敷廃止
		―	山西家、撫養において「北海道産物会所御用」に任命される
		5月13日	庚午事変（稲田騒動）おこる
1871	明治4	7月14日	徳島藩を廃し、徳島県を設置する
		11月15日	徳島県を名東県と改称する
1873	明治6	2月20日	香川県が廃止され名東県の管轄となる
1874	明治7	8月14日	鷲の門を残し、徳島城を取り壊す
		―	撫養の津川義五郎、梨の栽培をはじめる
1875	明治8	9月5日	香川県が再設置され、讃岐が分離する
		3月3日	四国遍路接待禁止の通達でる
1876	明治9	8月21日	名東県が廃止され、阿波は高知県、淡路は兵庫県に合併する
1877	明治10	12月15日	徳島電信分局が設置される
1878	明治11	―	阿波国地誌略（林省三）成る
1879	明治12	1月	郡区町村編制法が施行され、大区小区制を廃止。郡制の実施
1880	明治13	3月2日	徳島県が再設置される
1881	明治14	11月22日	阿波国郡村誌（三好・板野・麻植）成る
1882	明治15	―	鳴門から通天丸により大阪・兵庫・淡路間の航路を開業する（大安丸・撫養丸）
		8月31日	前川文太郎（鳴門わかめ製法改良者）没
1884	明治17	5月	大阪商船会社徳島支店が設立される
		―	斎田村、掃守藤吉、鳴門市岡崎港～大阪・兵庫・淡路間航路を開く
1886	明治19	11月29日	「阿波国名勝記」（堤大介）なる
1887	明治20	9月14日	阿波国共同汽船が創立する
1889	明治22	10月1日	市制・町村制が施行される
1891	明治24	4月1日	郡制施行。10郡に郡役所が設置される
		―	撫養と福良の有志により共同福良汽船会社設立
		―	富田九三郎が苦汁を求めて鳴門村三ツ石に移住
		―	イギリス人聖職者ヘンリー・ベイカー・トリストラムが渦潮観潮を行う
1892	明治25	1月15日	小学阿波国地誌（阿波国教育会）なる
1893	明治26	1月1日	瀬戸村明神で「富田海産塩類製造所」が設立
1894	明治27	1月	名東郡津名浦漁民、大阪佐野貝塚漁民と乱闘
1895	明治28	1月9日	徳島電燈株式会社が送電を開始する
		1月2日	板野郡里浦漁民、兵庫県福良漁民と漁区争い（その後、両県警察官の争いになる）
1896	明治29	1月	徳島鉄道株式会社が設立される
		10月11日	淡路銀行撫養支店開業
1897	明治30	―	第2回内国水産博覧会に出品された「鳴門若布」が有功二等銅牌を授与される
1898	明治31	4月	鳴門海峡（里浦・阿万浦間）に海底電線敷設
1899	明治32	2月16日	徳島鉄道、徳島・鴨島間の営業が開始される
		6月	小松島・和歌山間の定期航路が開通する
		―	南東京の主教エドワード・ビカステスが徳島から福良へ行く途中に渦潮を観潮

○鳴門海峡周辺関連年表

西暦	年	月日	事項
1900	明治30	―	鳴門要塞司令部発足
		―	小松宮彰仁親王が来県、鳴門観潮を行う
1903	明治36	―	鳴門要塞、由良要塞に組み入れられる
1905	明治38	4月	撫養塩務局が設置される
		9月26日	日露戦勝記念「徳島公園」が造営
		―	塩専売法公布
		8月2日	鳴門村会で鳴門公園設置を進める公園設置委員会の決議
1906	明治39	9月	鳴門公園の工事着工
1907	明治40	5月	鳴門保勝会設立
		9月1日	徳島鉄道が国有となる
1908	明治41	2月23日	『阿波名勝案内』(石毛賢之助)出版
		4月5日	徳島県誌略出版
		4月	鳴門公園が完成(村営)
		4月	皇太子嘉仁親王が鳴門観潮
1910	明治43	3月30日	徳島公園の造園完成(本多静六設計)
1911	明治44	6月	眉山公園保勝会設立、眉山中腹に新道を開く
1912	明治45	6月	鳴門塩田労働組合が結成される
		6月	板野郡鳴門村高島浜で、鳴門塩田労働組合結成
		―	西上国蔵翁(サツマイモを品種改良)功徳碑立つ(鳴門千鳥浜)
1913	大正2	4月20日	阿波国共同汽船会社敷設の軽便鉄道開通する(徳島・小松島間)
1914	大正3	―	摂陽商船会社設立
		3月25日	徳島線が池田まで延長される
		3月31日	中川虎之助、帝国議会委員会で「鳴門架橋及潮流利用発電調査ニ関スル建議案」提出、否決
		11月	神戸鈴木勝次、神戸丸をもって大阪・兵庫・撫養・津田間を航行(大正5年廃)
		12月18日	ドイツ人俘虜が徳島俘虜収容所に到着する
		12月13日	鳴門市岡崎に阿陽汽船(株)創立
1915	大正4	6月	モラエスが鳴門の渦潮を観潮
1916	大正5	4月10日	『御大典記念阿波藩民政資料』が出版される
		1月28日	撫養川東塩田労働組合結成
		7月1日	阿波電気軌道株式会社の軽便鉄道(古川・撫養間)開通
1917	大正6	4月6日	ドイツ人俘虜が、徳島収容所から板野郡板東町へ移る
		9月1日	阿波国共同鉄道が国に買収される
1918	大正7	4月	東久邇宮稔彦親王、鳴門公園にて観潮
		8月11日	撫養町で米騒動
1919	大正8	1月25日	鳴門塩田東部労働組合結成
		3月4日	撫養町立岩の塩田労働者、賃上げを要求して休業
1920	大正9	4月	北白川宮成久親王、鳴門公園にて観潮
		―	撫養自動車開業(徳島―撫養)
1921	大正10	1月	撫養塩田労働組合連合会が結成される
		9月	大塚製薬工業部が創立される
1922	大正11	3月	阿淡連絡汽船会社設立
		4月8日	鳴門村の土佐泊から鳴門公園下の福池まで、阿波電気軌道株式会社付属の鳴門観潮自動車が営業開始
		11月	皇太子裕仁親王が鳴門公園に行啓
		11月	堺・小松島(横須海岸)間に定期航空路が開設される
		―	淡路鉄道が営業を開始
1923	大正12	2月15日	阿波軌道の池谷・鍛冶屋原間が開通する
		4月	郡制廃止により鳴門公園が県営移管
1924	大正13	12月	鳴門公園大毛山の「根上がり松」が国天然記念物に指定
1925	大正14	6月	淡路鉄道、洲本・福良間が全線開通
1926	昭和1	8月11日	吉川英治『鳴門秘帖』連載開始
1927	昭和2	4月17日	撫養高島塩田争議がおこる
		5月23日	撫養塩田労働組合高島支部の児童170人、鳴門西尋常小学校で同盟休校
		―	鳴門、「日本百景」に選出
1931	昭和6	2月	鳴門が名勝に指定される
		4月	阿波鉄道、蛭子前駅から撫養駅に延伸
		10月	与謝野鉄幹・晶子夫婦来県、鳴門観潮を行う
		―	富田鷹吉が鳴門公園の土地を買収
1933	昭和8	7月23日	徳島放送局がラジオ放送を開始する
		―	撫養港修築

○鳴門海峡周辺関連年表

西暦	年	月日	事項
1934	昭和9	4月	閑院宮載仁親王来県、鳴門公園にて観潮
		―	富田鷹吉が買収した鳴門公園の土地を徳島県へ移譲
1935	昭和10	3月20日	高徳線が開通する
1936	昭和11	10月4日	日本航空輸送株式会社が大阪・徳島・高知間の航路を開設する
1938	昭和13	8月	阿波踊り自粛中止
1939	昭和14	11月	合同製塩工場の操業が開始される
1940	昭和15	12月16日	塩業企業合同により、本斎田工場建設
		12月16日	塩業企業合同により本斎田工場建設（鳴門）
1941	昭和16	12月15日	株式会社徳島新聞社が開業する
1942	昭和17	1月1日	食塩通帳制となる
1946	昭和21	12月21日	南海大地震が発生する
1947	昭和22	3月15日	撫養町・里浦村・鳴門町・瀬戸町合併して市制施行（鳴南市。5/15鳴門市と改称）
1952	昭和25	5月18日	鳴門が瀬戸内海国立公園に指定される
1953	昭和28	―	入浜式塩田は流下式塩田に転換されていく
		8月26日	鳴門市堂ノ浦でも真珠養殖することになり、海部郡那佐湾かわ母貝を送る
		―	鳴門―高島間海底ケーブル工事なる
1954	昭和29	4月12日	鳴門港・福良港間にフェリーボートが就航する
1956	昭和31	6月	鳴門塩業組合創立
1958	昭和33	1月26日	南海丸、鳴門沖で沈没。乗客・乗員167人全員死亡
		4月7日	鳴門自然水族館開館
1960	昭和35	5月18日	明石・鳴門海峡に夢の架け橋実現のため、神戸・兵庫・徳島の3県市議会は促進会をつくることになり、神戸市で打合せ会を開く
1961	昭和36	7月30日	小鳴門橋が開通する
1964	昭和39	11月	鳴門市に徳島県立鳥居記念博物館竣工
1966	昭和41	12月1日	鳴門イオン製塩株式会社が設立される（46年10月、鳴門塩業株式会社と改称）
		―	鳴門が旅行雑誌『旅』主催の「新日本旅行地100選」に選出
1971	昭和46	5月22日	県営鳴門総合運動公園が開場する
1972	昭和47	1月15日	国鉄鍛冶屋原線が廃止される
		1月25日	鳴門市の全塩田が廃止される
		5月10日	鳴門市にドイツ館竣工
1974	昭和49	12月19日	三菱石油水島工場から重油流出、鳴門海峡から阿南市沖まで拡大。沿岸漁業に被害続出
1975	昭和50	1月23日	鳴門市北灘町の養殖ハマチ業者42人、企業・国・地方自治体を相手取り、赤潮損害賠償・排水差し止めをもとめ、徳島地裁に提訴
1976	昭和51	5月	大鳴門橋着工
1977	昭和52	8月	鳴門市北灘沖に赤潮が異常発生する
1978	昭和53	6月14日	鳴門・福良間の日本道路公団鳴門フェリー廃止
1981	昭和56	10月1日	鳴門教育大学が開学する
1985	昭和60	6月8日	大鳴門橋が開通する
1997	平成9	8月20日	徳島阪神フェリーの全廃が決定する
1998	平成10	3月20日	大塚国際美術館が鳴門市に開館する
		4月5日	明石海峡大橋が開通する
2000	平成12	3月31日	徳島自動車道が全通する
		5月19日	鳴門市鳴門町「根上がり松」が枯死のため国天然記念物の指定を解除される
2002	平成14	1月7日	開設40年余の空路、徳島・大阪線が廃止される